

Congratulatory address

祝辞

これまで法人を支えてきてくださった
地域や医師会の皆様からメッセージを
いただきました。

幸手市長	渡辺 邦夫
杉戸町長	古谷 松雄
海老名市長	内野 優
北葛北部医師会長	野口 寿一
元海老名市医師会長	佐藤 中
日本医師会常任理事	葉梨 之紀

法人設立及び東埼玉総合病院開設40周年記念を祝して

幸手市長

渡辺 邦夫



この度は、社会医療法人ジャパンメディカルアライアンスの法人設立及び東埼玉総合病院開設40周年、誠にありがとうございます。

昭和48年に、医療法人社団「仁愛会」が設立され、東埼玉病院が開設、以降、医療の向上に努められるとともに、公平な医療サービスの提供を続けてまいられました。その後、平成10年に東埼玉総合病院に名称変更を行い、平成24年5月には、杉戸町から幸手市に移転し、現在も、地域医療の中核を担う医療体制の整備を進めていただいております。東埼玉総合病院は、「仁愛」の精神を基本理念とし、その言葉の示すとおり、「仁」の心をもって行動を律し、「愛」の心をもって人に接する診療を続け、様々なサービスを提供できる総合病院として、幸手市をはじめ、近隣地域住民の安心して住みよい生活の確保と健康の維持・向上に多大な貢献を果たされております。

これもひとえに、社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス鄭理事長や東埼玉総合病院三島院長をはじめ、職員各位、そして、これまで病院運営に携わっていただきました多くの皆様の並々なぬ熱意とご努力のたまものであり、深く敬意を表します。

さて、皆様ご承知のとおり、地方自治体におきましては、少子高齢化の急速な進行、地方分権の進展、財政状況の低迷が続く中、国民健康保険や介護保険などの様々なセーフティーネットの課題、全国的な医師不足、救急医療体制の維持等、地域における医療体制においてもこれまでにない厳しい状況にあります。

このような中、東埼玉総合病院は、患者の皆様 の立場に立った医療を実践し、よりよい医療サービスが提供できるよう、常に医療の充実を進められております。また、緊急・重症な状態にある患者の皆様に対して入院・手術・検査など高度で専門的な医療を提供する病院として、救急医療の充実を図られ、この中でも脳卒中患者の救急受け入れ態勢を強化し診療に当たられているほか、夜間救急病院として、地域の夜間での急病診療にご尽力いただいております。更には、厚生労働省による在宅医療連携拠点事業を実施し、ソーシャルワーカーや地域包括支援センター等と連携しながら、包括的かつ継続的な在宅医療の提供を目指した活動を行うとともに、認知症の相談・治療を行っていただくなど、常に地域に密着した医療・介護の提供に努められ、中核的医療機関としてその使命を果たされております。

今後とも東埼玉総合病院におかれましては、地域医療のリーダーとしてご尽力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後に、社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス及び東埼玉総合病院が、40周年を契機に、益々発展されますことと、関係各位のご健勝を祈念いたしまして、祝辞といたします。

東埼玉総合病院開設40周年及び海老名総合病院開設30周年を祝して

杉戸町長

古谷 松雄



社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス東埼玉総合病院の開設40周年及び海老名総合病院の開設30周年、誠にありがとうございます。

東埼玉総合病院は、昭和48年9月に開設されてから、杉戸町を中心としたこの地域の中核病院として地域医療に貢献されてこられました。

開設以来、院長はじめ関係者各位のご努力により、医療設備を年々整備拡張され、地域住民の医療の確保と健康増進にご尽力いただきましたことに感謝申し上げ、各位のご熱意・ご努力に対しまして深く敬意を表する次第です。

杉戸町に東埼玉総合病院が開設された当時の町の人口は2万4千人ほどと現在の半分程度でした。高度経済成長期で人口が増加する中、この地域の医療を支える中核病院として地域住民の信頼を得ると同時に地域医療のリーダーとしての実績を重ねてこられましたが、平成24年5月に杉戸町から幸手市へ移転となりました。移転後の場所は杉戸町との境界であることから現在も杉戸町の町民の心の支えとなっております。同じグループの東埼玉総合病院附属清地クリニックにおいては引き続き杉戸町においてかかりつけ医として地域に根ざした医療を担っていただいております。また、やはり同じグループのケアネット東埼玉や東埼玉訪問看護ステーション、ヘルパーネット東埼玉、デイサービス東埼玉、清地クリニック通所リハビリセンター、特別養護老人ホームはなみずきにおいては、地域に密着した介護サービスを提供され在宅医療、介護・福祉の向上に大きく寄与されております。同様にわかば保育園についても子育て支援になくはならない役割を果たしていただいていることに對しまして改めて感謝申し上げます。

また、東埼玉総合病院は、東部北地区病院群輪番制病院の救急病院として、休日及び夜間も含め、多くの救急患者を受け入れていただいております。この地域の安全・安心を支えるとともに昨年稼働開始いたしました埼玉利根保健医療圏地域医療ネットワークシステム“とねっと”の医療連携システムの構築にあたりまして中心的な役割を果たされ、現在そのシステムの普及にもご尽力いただいているところで。

今後も、東埼玉総合病院におかれましては糖尿病をはじめとした慢性疾患の予防医療や急性期医療の面で地域医療の拠点としてご尽力いただきますようよろしくお願い申し上げますとともに、ジャパンメディカルアライアンスグループが益々発展されますことと理事長をはじめ関係者皆様方のご健勝を祈念いたしまして、祝辞とさせていただきます。

海老名市長

内野 優



海老名総合病院が開設30周年を迎えられましたこと、誠にありがとうございます。貴病院が30周年を迎え、記念誌を発行されることは、誠に喜ばしく、大変意義のあることであり、心からお祝いを申し上げます。

昭和58年に貴院が開院されるまでは、海老名市内の医療資源は非常に乏しい状況で、救急医療を担う医療機関が、市内にはありませんでした。市内の病院はひとつだけという状況で、現在と比べると、まさに隔世の感があります。

市としては、こうした状況を打開するため、参入していただける病院を探したところ、地元医師会の了解を頂くこともでき、貴院の開院へとつながりました。その後は、県央医療圏の中核的な「急性期病院」としての役割を担っていただいております。また、年間4～5千件の救急搬送の受け入れもしていただいております。海老名市だけではなく、近隣の自治体にとっても、なくてはならない病院となっております。

改めて、感謝を申し上げたいと思います。

平成20年2月には、県内の民間病院では初めて地域医療支援病院の承認を受けられ、地域密着型病院としての性格を強められていることは、市にとっては誠に頼もしい限りであると言えます。

また、平成21年2月には、厚生労働大臣所管の法人としては、全国初となる認定を受け、同年4月から、「社会医療法人」としてのスタートを切られております。救急医療など公共性、公益性の高い事業に対して一定のレベル以上で取り組まれる姿勢が評価されての結果だと考えております。

院長先生をはじめ多くの先生方が、機会あるごとに「24時間365日断らない救急医療を目指します」という発言をされておりますが、市民の生命を守る立場の行政としては、非常に頼もしく思っております。

医療を取り巻く環境が変化し厳しさを増す中で、病院経営も難しさを増しており、救急医療体制を維持することは、非常に困難になりつつあることは認識しておりますが、引き続き現状の体制を維持していただければと思います。今後も行政としてできる協力は、極力行っていきたいと考えております。これからも、貴院の基本方針にもあるように、「質の高い地域医療・急性期医療の実践」を使命としていただきますよう、どうかよろしくお願いいたします。

結びに、海老名総合病院の益々の発展と、職員の皆様のご健康、ご多幸を祈念いたしまして、お祝いのごあいさつとさせていただきます。

北葛北部医師会長

野口 寿一



東埼玉総合病院開設40周年、誠におめでとうございます。昭和48年9月杉戸町に東埼玉病院を開設され、以来当地域における地域医療の拠点として貢献し、平成24年5月には更なる飛躍を期して幸手市に新築移転されました。この間海老名総合病院、清地クリニック、埼玉脊椎椎髄病センターの開設等発展を遂げられました。このことは現在の三島院長先生はじめ、歴代の院長先生や職員の皆様のご努力のたまものであり、深く敬意を表します。

北葛北部医師会内には、平成23年幸手総合病院が久喜に移転して以来一般病床100床を超える病院がなく、東埼玉総合病院には積極的な救急患者の搬入に努めていただいております、幸手、杉戸地域だけではなく埼玉県東部地域の住民にとって貴院が非常に心強い存在となっております。

さて、北葛北部医師会は市町村合併の影響を受け、今や幸手市と杉戸町だけとなって会員数も半減、県内で1、2を争う小さな医師会となりました。地域医療を考えるとどうしても他地域への依存度が高くなっております。

当地域は利根医療圏に属し、二次救急もその医療圏内で運営されております。また、最近ではインターネットを利用した病診連携を目指した“とねっと”というシステムが構築され、参加している医療機関もありますが、現在利用度は低く、有効な手段となるには、更なる進展により多くの医療機関の参加が必要と考えます。一方では救急隊との協議を行うメディカルコントロール協議会では、東部メディカルコントロール協議会、更に茨城県の西南医療センター病院を中心とした坂東メディカルコントロール協議会にも参加するという、他地域との複雑な連携を余儀なくされていきます。しかし、患者さん、我々医師会員の利便性を考えると、どうしても北葛北部医師会内において中心となるべき病院が必要と考えます。

東埼玉総合病院におかれましては、新築移転、創立40周年を契機に当該地域の基幹病院として更に発展されることを願っております。我々医師会としても、貴院を中心として地域医療に貢献できよう努めてまいりたいと思います。

今後ともよろしくご指導、ご協力のほどお願い申し上げます。

Profile

昭和46年3月	群馬大学医学部卒業
昭和51年3月	群馬大学医学部大学院卒業
平成元年4月	野口内科小児科医院 継承
平成7年6月～	埼玉県社会保険診療報酬支払基金審査委員 就任
平成22年4月	北葛北部医師会長 就任 現在に至る

元海老名市医師会長

佐藤 中



30周年おめでとうございます。もともとずっと以前から存在され、海老名や県央地区の地域医療の重責を担ってこられたような感もいたします。

海老名総合病院は昭和58年9月に開設され、海老名市医師会の設立は昭和62年4月です。高座医師会の海老名支部時代の3年半を共に歩み、多大なご尽力を頂きました。病院設立の企画当初は、当時の海老名支部長が病院開設の関係者とは面会しないようにしている、という話はよく聞きました。お話し合いまでには、ご苦勞されたことでしょう。南嘉輝先生が海老名支部で、設立の趣旨を説明されておられました。

その後、海老名市医師会設立への機運が高まり、昭和60年9月に海老名市医師会設立検討委員会の設置が承認され(委員9名)、山田先生の提案で病院からも1名入れてはということで、田中昭太郎先生が最後の委員に入られました。穏健で正統派のご発言で、大変に助かりました。海老名市医師会設立後も、病院関係の医師は医師会の役員には就任できませんでしたが、設立10年を経過した後は、病院の先生方にも、ご多忙のところ役員にご就任いただき、医療セミナーの講師や各種役職担当の決定も、理事会会議中に円滑に対処できるようになりました。

医療現場や救急医療では、総合病院の組織を挙げて、粉骨砕身24時間体制で地域住民への奉仕を続けていただき、非常に感謝しております。

特に、海老名総合病院とさがみ野中央病院、更には湘陽かしわ台病院との連携、市外の各病院との連絡など規模が広がり、二次救急や小児二次救急への迅速な対応や、「断らない救急外来」を目指しておられることは、敬服に値し感銘も受けます。

昭和55年4月に開設された海老名厚生病院は、増築増資でしたが、平成5年12月下旬に運営が行き詰まり、しばらく空屋でした。平成7年4月に医療法人「仁愛会」により、附属東病院として発足しました。この建物は数奇な運命を辿り、平成13年4月から5年間、東日本循環器病院となった後、ヘルサポートセンター「ヘルサック」が移転し、最終的に「海老名メディカルサポートセンター」として、救急病院機能とは別の形で、市民への貢献度が高いと認識しております。

JMAジャパンメディカルアライアンスが、関東地区でも特異な形で、各種事業形態を含んで、着実な前進をされておられることは、総合病院と同じ市内に住むものとして、大変うれしい限りです。

Profile

昭和51年11月～現在	佐藤クリニック院長
昭和56年4月～昭和62年3月	高座医師会理事
昭和62年4月～平成9年2月	海老名市医師会副会長
平成9年2月～平成21年3月	海老名市医師会会長

日本医師会常任理事
前海老名市医師会長

葉梨 之紀



30周年おめでとうございます。早いものです。ね、海老名駅周辺も田んぼや畑、野原が多く、病院が大きく目立ったのを思い出します。

海老名市は厚木市・大和市・座間市・綾瀬市に囲まれてまだ人口も少なく、米軍厚木基地の騒音に日夜悩まされておりました。医療機関は、できたばかりの海老名厚生病院(100床)と少数の診療所だけでした。

しかし、海老名市は県央地域で交通の便も良く、急速に人口が増えて発展しました。救急患者も多くなり、市当局は大病院誘致に一生懸命でした。総合病院の設立準備段階から幹部の先生方が医師会に来られ、内容を丁寧に説明されたのを記憶しております。当時は新規の若い開業医が多く、休日急患診療所が救急に対応していました。海老名厚生病院が倒産してからは、民営ながら海老名総合病院が市内で唯一の基幹病院となりました。

海老名総合病院の優れたところは、絶えず高度医療を取り入れることはもとより、地域医療に対する連携と共同参加の姿勢であると思います。医師会の各種委員会や行事にも積極的に参加してきます。現在の田中昭太郎医師会長も海老名総合病院の前院長ですし、病院の熟練したスタッフが次々と地域で開業しました。

これから都市圏は65歳以上の老人、特に75歳以上の後期高齢者が急速に増え、若年の労働者人口が減少し、2050年代になると老人と若者の人口比率が等しくなると予想されています。認知症の人も多くなります。医療も急性期だけでなく慢性期・維持期も重要になりますし、入院、外来、在宅医療が必要になり、地域連携や医療連携が重要になります。病院や診療所、また行政とも一体となって、介護を含め多職種が手をつなぎ合ってこの地域にあった体制・システムを考える必要があります。

国の経済・財政状態は決して良くありませんし、民間民営ですから公的な補助はありません。しかし、民間には公立と違って自由があります。自由な発想、自由な工夫と行動ができます。海老名総合病院がこれからも益々地域住民の健康と命を守るために尽くしていただくことを期待します。

Profile

昭和44年開業	有床診療所
昭和62年	海老名市医師会 理事
平成21年	海老名市医師会 会長
平成22年～	日本医師会 常任理事